

第2期 石狩市食育推進計画（R4～R13）

【素案】

キャッチコピー

「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○」

（第1期 子どもの未来応援！ いしかりっ子食育計画）

令和4年4月

石 狩 市

目次

第1章 計画の策定にあたって

- 1-1 計画の趣旨・目的
- 1-2 計画の位置づけ
- 1-3 計画の期間

第2章 石狩市の食育の現状と課題

- 2-1 食育アンケート結果から見た現状
- 2-2 石狩市の課題

第3章 石狩市が目指す食育のイメージ

- 3-1 目指す姿（方向性）
- 3-2 基本方針
- 3-3 数値目標と現状値

第4章 施策の展開

- 4-1 具体的な取り組み
- 4-2 推進体制のイメージ

資料

第1章 計画の策定にあたって

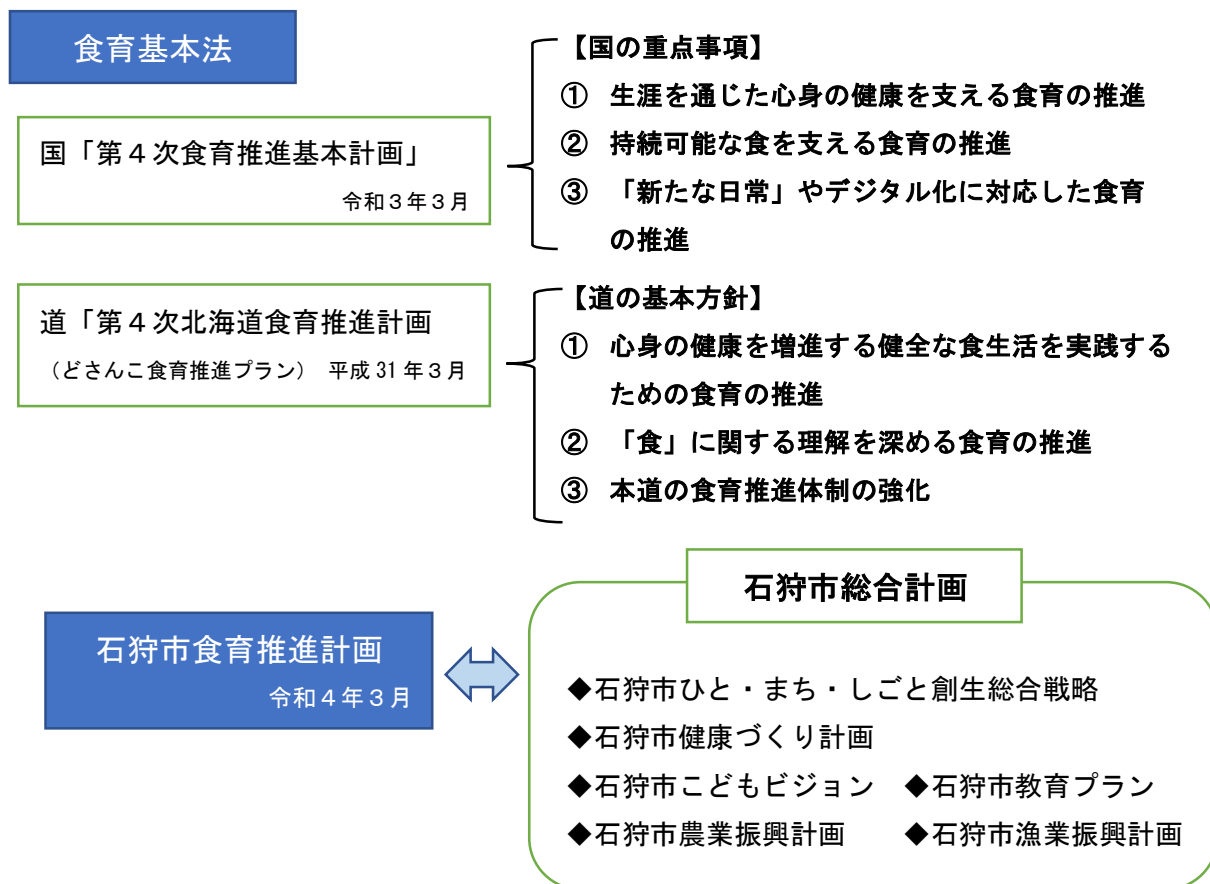
1-1 計画の趣旨・目的 (あとで肉づけ)

- ・市では、平成29年3月に「石狩市食育推進計画」を作成し、食育を推進。
- ・現計画が令和3年度で計画期間を満了することから、これまでの取り組みによる成果と、SDGsの考え方を踏まえ、また、食育をめぐる情勢の変化や課題に対応し、総合的に食育を推進するため、「第2期石狩市食育推進計画」を策定する。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法（平成17年7月15日施行）第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置づけ、その基本理念に基づき、地域特性を活かした食育を総合的、具体的に推進するために策定するものです。

また、国の「第4次食育推進基本計画」や北海道の「第4次北海道食育推進計画（どさんこ食育推進プラン）」を踏まえた上で、市の既存の各種計画と連携しながら、食育を推進します。



1-3 計画の期間

本計画の期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とし、社会経済情勢の変化、国や道の計画との整合性を図るため、必要に応じて見直しを行います。

| R1 (H31) | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 |
|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 道「第4次北海道食育推進計画 H31年度からR5年度まで | | | | | | | | | | | | |
| | 国「第4次食育推進基本計画」 R3年度からR7年度まで | | | | | | | | | | | |
| | | 石狩市食育推進計画 R4年度からR10年度まで | | | | | | | | | | |

第2章 石狩市の食育の現状と課題

2-1 食育アンケート結果から見た現状

石狩市食育推進計画の策定にあたって、検討課題を調査するため令和3年9月にアンケートを実施しました。調査対象は、市内小学校10校の2年生、4年生、6年生と市内中学校7校の1年生、2年生の保護者が子どもについて回答する方式で、2,670件に配布し、1,006件の回答がありました。(回答率37.7%) ※前回65.1%

～ アンケート結果 ～ 別紙のとおり

2-2 石狩市の課題

◎食育アンケート結果からみた課題

《朝食の欠食》

7.5%の児童・生徒に欠食がみられる。(前回7.5%)

国の第4次食育推進基本計画における子どもの朝食欠食割合の目標値は0%となっており、さらなる改善が必要。

《食事バランス》

「主食、主菜、副菜がそろった」食事については、前回同様、夕食では「ほとんど

そろっていることが多い」とする家庭が7割を超えているものの、朝食については約2割にとどまっている。バランスの良い食事の必要性やその工夫など啓発することが大切です。

《共食》

夕食で家族などと一緒に食べている子どもの割合は多い。

- ・朝食 ほとんど一緒に食べてない 約2割 核家族化や朝の時間帯
- ・夕食 ほとんど一緒に食べている 約9割 自宅時間の増加

《食文化の伝承》

家庭で郷土料理を出している割合が3割（前回 約9割）と大幅に減少している。食や地域の歴史文化通じた郷土愛を育くむ取り組みの重要性を認識する保護者は半数を超えている。

家庭や学校、地域で郷土料理への関心や理解、伝承を深める取り組みが必要である。

《農林漁業体験》

農林漁業体験を体験したことがある子どもが約6割に減少している。（前回 約9割）

コロナ禍による学校等での体験の制限が要因と思われる。体験を希望する保護者が約8割いることから、体験を通じて地域の農林水産業に対する関心と理解を深める機会を提供することが重要です。

《食品ロス》

「食品の食べ残しを減らす努力」を必ず又は時々している割合と、「食品廃棄等の発生に対してもったいない」といつも又は時々感じている割合がともに約9割。

食品ロスを減らす更なる意識向上に向けた啓発や情報提供が必要である。

《新型コロナウイルス感染症による食生活の変化》

コロナ禍において、家庭での食生活はほとんどの方が「変わらない」としている。

《自由意見から》

- ・家庭ではなかなかできない食育を学校（給食や体験等）に期待する保護者が多い。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は学校や地域で起きている。（給食の食べ方や時間、体験活動、行事の中止）

第3章 石狩市が目指す食育のイメージ

3-1 目指す姿

食をめぐる課題や情勢変化等を踏まえながら、食育を推進することは、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことに資するとともに、国民の食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々の様々な行動に支えられていることへの感謝の念や理解を深めることにつながるものであり、持続可能な社会の実現に向けた重要な取り組みです。食育は、あらゆる世代に対し実施するものですが、本市では、食育の基礎をつくることができる子どもの時期から、生涯にわたって食育を推進するため、第2期石狩市食育推進計画においても、子どもを中心に目指す姿を次のとおり定め、取り組めます。

子どもの未来応援！ いしかりっ子食育計画

～ (サブテーマ) ～

前回「みて」「さわって」「学んで」自ら食を選択する力を身につけよう

目指す姿：

前回 食を通じ地域で子どもの心身の健康と生きる力を育む

食育とSDGsの関係性

2015年9月の国連サミットにおいて、2016年から2030年までの国際目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」が採択されました。

SDGsは、持続可能な世界を実現するため、17の目標と169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。

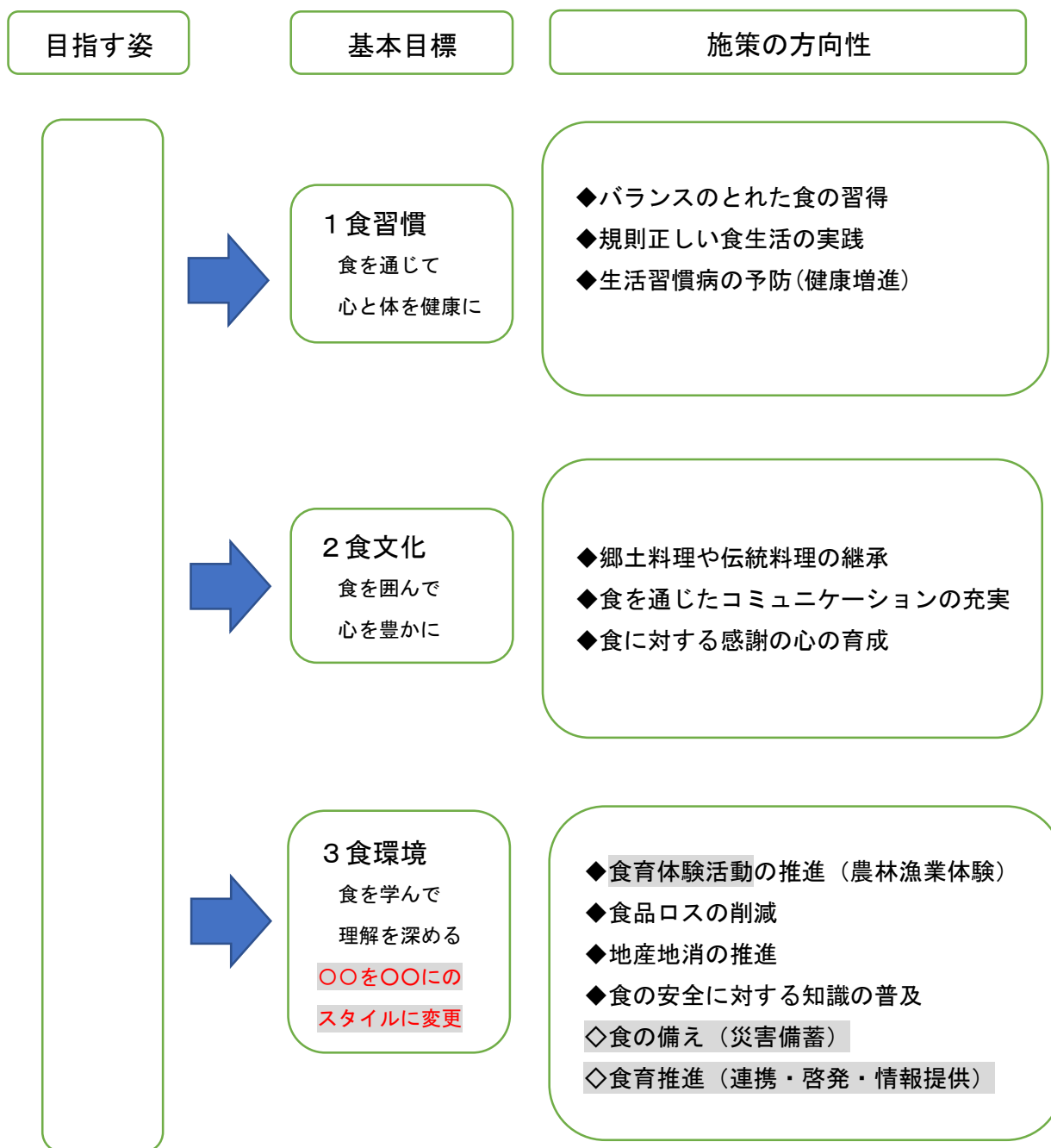
SDGsの目標には、「目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」「目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する」などの食育と関係が深い目標があり、計画に反映することでゴールの達成を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3-2 基本方針

目指す姿を実現するために、3つの基本目標と施策の方向性を定め、食育の理解を深め、基本目標に沿った施策に取り組むことで、課題の解決を目指します。



3-2 数値目標と現状値

| 指標項目 | | H28年度 | 現状値 ※1 R3年度 | 目標値 R13年度 |
|-------------|---|-------------|----------------|--------------|
| 食習慣 | 1 朝食を毎日食べている児童・生徒の割合 | 91.6% | 90.2% | 100% |
| | 2 栄養バランスに配慮した食生活を実践する家庭の割合（主食・主菜・副菜をそろえた食事） | 朝食 22.4% | 朝食 21.8% | 増加 |
| 夕食 74.1% | | 夕食 79.9% | | |
| 食文化 | 3 食事を誰かと一緒に食べる「共食」の割合（夕食） | 81.5% | 84.6% | 増加 |
| | 4 食を通じて郷土愛を育む取り組みが重要だと思っている保護者の割合 | 49.6% | 58.3% | 増加 |
| 食環境 | 5 学校給食における地場産物等を使用する割合 | 53.7% | 55.4% ※2 | 55%以上 ※3 |
| | 6 農林漁業体験を経験した子どもの割合 | 88.7% | 63.4% | 増加 |
| | 7 食品ロス削減のために食べ残しを減らすなどの努力をしている家庭の割合 | 41.2% | 42.7% | 増加 |

※1 現状値は、令和3年9月に実施した食育アンケートから算出。

※2 石狩市学校給食センターの実績値（R2）

※3 石狩市教育プランの目標値

・・・R2からの新プランでは 数値目標はなくUPのみ。

農産物の生産時期が限定されることから使用割合も限られる。現状以上を目標設定。

第4章 施策の展開

4-1 具体的な取り組み

1 食習慣

食は健康な生活を営むための基本であり、心身の健やかな成長、健康の維持管理、生活習慣病の予防など生涯にわたる健康づくりのために最も大切な要素です。特に子どもの時期は、将来の食習慣を方向付ける上でとても重要な時期です。子どもと保護者が一緒に意識を高め、行動するための発達段階に応じた食の体験学習を積み重ね、食を選択する能力を身に着けることが必要です。

(1) バランスのとれた食事の習得

健康な体づくりをするためには、栄養バランスのとれた食習慣を身につけることが大切です。食事は、毎日の生活の中で大きな楽しみであるとともに、生涯を健康に暮らしていくための大切な要素です。心身が健やかに成長するためには、毎日の食事をバランスよく食べることが大切であることを理解し、実践する力を身につけるために一貫性・持続性のある食育を推進していきます。

◎推進テーマ 主食、主菜、副菜を揃えたバランスの良い食事の普及

(2) 規則正しい食生活の実践

1日3回の食事、なるべく決まった時間に規則正しく食べ、生活のリズムを整えることが大切です。特に朝食は1日を元気に活動するために重要です。成長期においては、心身の発達のために沢山の栄養が必要となるため、朝食をきちんととることや規則的な食生活リズムの大切さなど、基本的な食習慣に関する正しい知識の普及、啓発をします。

◎推進テーマ 「早寝早起き朝ごはん」の推進

乳幼児期から生活リズムを整え、1日3食食べる習慣の普及

(3) 生活習慣病の予防（健康増進）

子どもの頃からの食習慣の乱れや野菜の摂取不足などの栄養の偏りが肥満や生活習慣病などの問題を引き起こしています。食への関心を高め、重要性を学ぶことにより、食に関する知識や選択する力を身につけ、健康的な食習慣の実践につなげていけるように支援します。

◎推進テーマ 健康を考えた食を選択する能力の習得
栄養に関する知識の習得

◎主な取り組み

栄養相談（妊婦、乳幼児）、離乳食教室、栄養ミニ講話、親子料理教室、
保育園や学校での食育、スポーツ食育講座

2 食文化

食事をするときの挨拶やマナーといった基本的な事柄は、食を通じたコミュニケーションや食体験によって、大人から子供へと受け継がれてきました。しかし、**核家族化**やライフスタイルの多様化に伴い、コロナ禍も拍車をかけ、~~家族と一緒に食事や調理をする機会が減少しています。また、地域の食文化、~~郷土料理や伝統料理の作り方や食べ方の情報を伝える場**る機会が**も減ってきています。

そのため、今後は家庭だけではなく、学校、職場及び地域などの様々なコミュニティにおいて、食に関する知識を共有するとともに、皆と一緒に食べることの喜びと楽しさを感じることで、食への関心や感謝の気持ちを育て、人々の豊かな心を培っていくことが必要です。また、地元を受け継がれてきた食文化を次の世代に引き継いでいくことも、郷土愛を深める上で重要です。

（1）郷土料理や伝統料理の継承

先人たちが地元の食材と知恵を絞って作り出した郷土料理や伝統料理を次の世代に引き継いでいくことが郷土愛を深めることにつながります。**学校給食を始めとした学校教育活動において**、地域の食文化を知り、料理教室や体験活動などで郷土料理や伝統料理を継承します。また、情報提供や人材育成にも努めます。

◎推進テーマ 郷土料理や伝統料理、和食文化の継承

（2）食を通じたコミュニケーションの充実

食事は、単に体の栄養をとり込むためだけでなく、食の楽しさを実感することができるものです。**コロナ禍において、「黙食」を実践する状況ですが**、子どもを含む全ての人々が、家族や仲間と一緒に食事をする「共食」を通じて、コミュニケーションを充実させるため、共食の重要性を普及、啓発します。

◎推進テーマ 「共食」の普及・啓発

学校における食に関する指導の充実

共働き世帯やひとり親家庭に対する食育支援

→ 地域における共食の推進（子ども食堂や通いの場など）

（３）食に対する感謝の心の育成

食材の生産から消費に至るまでの間、多くの人々が関わることで食が支えられています。一連の食の循環を意識して食べ物を大切にすることを心がけることが、食べ残しを減らすことにもつながります。また、毎日の食材や調理してくれた人に対する感謝の念を持ち、しっかりとした食事マナーを身につけることも大切です。食の循環に関する啓発や生産者のことを知る機会の提供に努めます。

- ◎推進テーマ 食の循環に関する啓発
- 市民と生産者との交流の促進
- 食事のマナーを習得する機会の提供

◎主な取り組み

食育授業、いしかりデーウィーク（学校給食）、保育園での食育、食育イベント
子どもの居場所開設支援、観光を切り口とした石狩PRAIDEの醸成（鮭育の推進）

3 食環境

本市には、豊かな自然条件の下で育った地場の新鮮な食材や、それらを使った料理・加工食品を食べられる飲食店などが身近にありますが、市民に広く周知されているとは言えない状況にあります。

直売所や観光農園など、市民が生産者との交流や農林漁業体験ができる場や機会を提供するとともに、学校給食や市内飲食店等における地場製品の積極的な活用を促進し、市民が地元の農水産物や食に関連する産業の役割について理解を深められるよう、地域全体で地産地消を推進し、食育を通じた市民の豊かな生活の実現につながることを目指します。

（１）食育体験活動の推進

石狩市の景観や農水産物の魅力を最大限に活かし、農林漁業体験を通じて地域産業の理解を深め、生産者との信頼関係を築きます。また、グリーンツーリズム、調理講習会などの参加により、食に関わる体験を促進します。

- ◎推進テーマ 農林漁業体験ができる場やイベントの充実
- 都市と農村の交流（グリーンツーリズム）の推進

（２）食品ロスの削減

売れ残りや食べ残しなど、食品関連事業者や一般家庭から発生する食品廃棄物のうち、まだ食べられる状態にあるのに廃棄されるもの「食品ロス」の発生は、様々な要因

が複雑に関わっており、ある特定の立場の人に削減の責任があるわけではありません。

行政と市民・事業者等がその必要性を共通認識し、それぞれの立場で取り組むこと、協力しながら取り組むことを意識して食品ロスの削減を目指します。

- ◎推進テーマ 食に関する指導を通じた「食を大切に作る意識」の醸成
一般家庭での食品ロス削減につながる行動を啓発
食品を再利用する取り組みの検討

(3) 地産地消の推進

生産者の顔が見える安全・安心な農水産物を求める消費者の声にこたえとともに、地域農水産業の活性化につながるものであり、同時にフードマイレージの縮小による環境負荷の低減に貢献するものです。

各種情報の提供、生産者などによる直接販売の促進などによる消費者と生産者などの結びつきの強化などに取り組み、石狩市の食材を積極的に取り入れた食生活を推進します。

- ◎推進テーマ 地産地消の推進

(4) 食の安全に対する知識の普及

食品や食生活の多様化に伴い、食の安全性についての関心は高くなっています。正しい食品の選び方や保存方法、食品表示など食に関する知識を正しく理解し、自らの判断で適切に食品を選択し、安心して食生活を送ることができるよう、学習する機会や情報の提供を行います。

- ◎推進テーマ 食の安全・安心に関する最新情報の提供
学校における食に関する指導の充実

(5) 食の備え（災害備蓄） **新設**

災害は、いつ発生するかわかりません。ライフラインが復旧しない場合、災害支援物資の到着は遅れ、物流機能の停止で食品が手に入らないことも想定されます。日頃より災害時に備えた家庭での食品備蓄が必要です。

- ◎推進テーマ 災害時に備えた食育の推進

(6) 食育推進（連携・啓発・情報提供） 移動

食育を総合的に推進するためには、情報の一元化や関係団体との連携が必要です。

また、食育は体験的な活動を通して身につけることが多いですが、コロナ禍においては「新たな生活様式」に対応しデジタル技術を上手に活用した食育の推進に努めます。

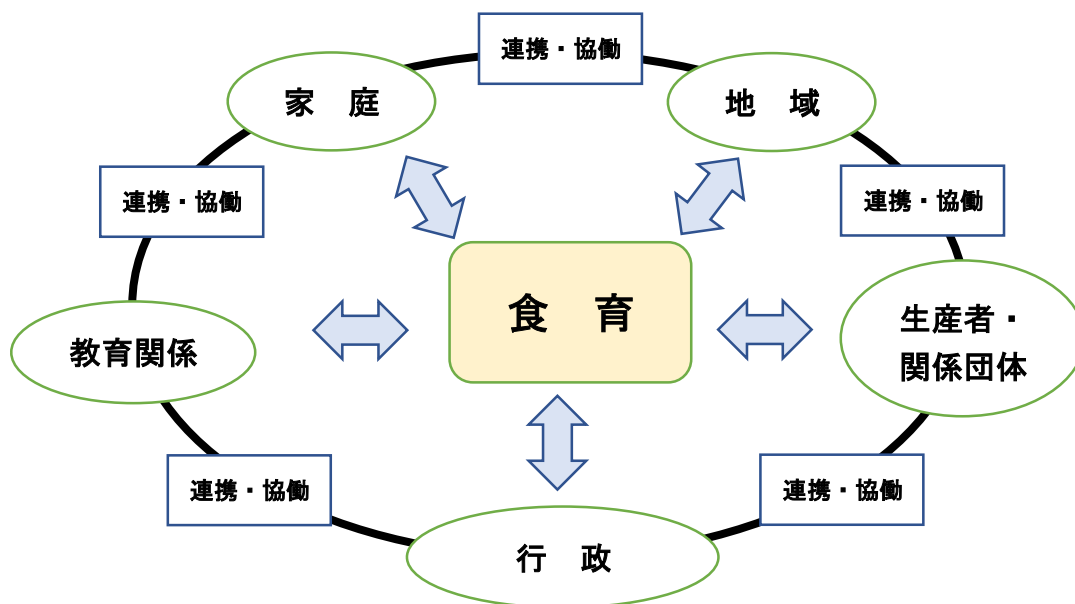
- ◎推進テーマ 食育の情報提供の拡充

◎主な取り組み

食育体験事業（農作業、収穫体験）、食品ロスの啓発、地産地消の店認証制度
石狩浜学習、食と農の未来づくり事業、食生活改善推進員の養成、
食育に関する情報提供・普及啓発、関係団体との連携

4-2 推進体制のイメージ

食育は、幅広い分野に関係することから、効果的に推進していくためには、家庭、地域、教育関係、生産者団体、行政など様々な主体が、それぞれの役割を理解し、相互に連携・補完しながら食育の推進に努めます。



【家庭】

家庭は基本的な食習慣を身につける最も重要な場です。保護者が子どもの食に対する関心や理解を深めるとともに、栄養バランスのとれた規則正しい食生活の実践に努めます。

【地域】

家庭や個人だけでなく、学校や生産者、企業や関係団体など地域ネットワークを活用して、食育の推進、食生活の改善を図ります。

【教育関係】

小中学校、認定こども園等では、食べる喜びや楽しさ、食の大切さなどを学べるよう教育活動全体を通じて食育の推進を図ります。また、地域の文化や産業等の理解を深め、食への感謝の念を育むとともに、地産地消の推進を図るため、学校給食における地場産物の活用を促進します。

【生産者・関係団体等】

体験や見学の機会を提供し、食に関する関心と理解の増進、地場産品や郷土料理の伝承、生産者と消費者の交流を図ります。

【行政】

食育を推進するための基盤づくりや、食育の重要性についての指導や情報提供、普及啓発に努めるとともに、地域の関係者と連携・協働し、地域の特性を生かした取り組みの実施に努めます。